

来週の『売り物』記事はこれ



2016年6月3日号

毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

元慰安婦 フォローアップ事業の現場

5日(日)



慰安婦問題を巡り、日韓両政府は昨年12月、韓国政府が設立する財団に日本政府が10億円程度を支出することで一致し、「最終的かつ不可逆的に解決」されることで合意しました。合意履行のための準備作業と並行して、日本政府による元慰安婦へのフォローアップ事業(巡回訪問)が行われています。韓国の被害者を支え、事業の実施主体となっているのは日本のNPO法人のメンバーです。日本政府を相手取った元慰安婦たちの戦後補償裁判を支援する一方で、政府が設立したアジア女性基金の活動に協力しました。1990年代初めに慰安婦問題が浮上してから四半世紀あまり。被害者本位を貫き、解決策を探ってきたNPO法人代表理事、臼杵敬子さん(68) =写真=の巡回訪問に同行し、日韓合意後の現場を歩きました。



日曜朝は『S』で始まる——。ストーリーにご期待下さい。

オバマ広島演説はなぜ胸を打ったか

スピーチライターが世界を変える

夕刊特集ワイド 6日(月)



5月27日、米国の現職大統領として初めて被爆地・広島を訪れたオバマ氏 =写真=。平和記念公園で行った演説は、概ね高く評価されました。核廃絶への大統領の熱意もさることながら、草案をまとめたスピーチライターの名も大きかったはず。なぜ、あの演説は胸を打ったのか。そして「リーダーの演説」とは、どのようにして練り上げられるのか——。民主党政権でスピーチライターを務めた松井孝治・慶応大教授らに聞きました。

ブーイングに四面楚歌…… 舛添要一東京都知事

公人の「けじめ」を考える

オピニオン面 8日(火)

東京都議会が大荒れの気配です。もちろん、次々と噴出している舛添要一知事 =写真=の「公私混同」疑惑が要因です。公用車での別荘通い、不透明な政治資金の支出……。知事は「法的に問題はない」と強気の姿勢ですが、今回の問題は一律に法や規制だけで公職者の仕事とプライベートを区切ることの難しさも露呈しました。公人の「公私のけじめ」のあり方を考えました。



時代が見える——。オピニオン面にご期待ください。

しつけと虐待の境目は

くらしナビA面 9日(木)



北海道七飯町の林道で置き去りにされ、行方不明になっていた小学2年の男児が1週間ぶりに保護されました。男児が公園で父親の言いつけを守らず、人や車に石を投げつけたため「しつけ」として山林の中で車から降ろしたといます。父親は「虐待を疑われると思った」と、当初は警察に虚偽の説明をしていたそうです。しつけと虐待の境界線を考えます。

ユニバーサルツーリズム

くらしナビA面 11日(土)

高齢者や障害者も気兼ねなく旅を楽しめるようにという考えに基づく「ユニバーサルツーリズム」。高齢化が進展する中、2020年の東京五輪・パラリンピックを控え、注目が集まっています。バリアフリー化は以前より進んでいるものの、情報開示はまだ不十分。一方で、「誰もが心地よく利用できるホテル」の構想も進んでいます。現状や課題を探ります。



加藤登紀子・岸恵子対談



おんなのしんぶん 6日(月)



歌手の加藤登紀子さんがホスト役を務める対談「Tokiko's Kiss」。今回のゲストは女優で作家の岸恵子さん(83) =写真=です。パリ在住の岸さんは、成熟した男女の愛を描いてベストセラーとなった「わりなき恋」の舞台を今年も再演予定。大人の愛や、フランスの国民的歌手であるエディット・ピアフ、フランスから見た日本人観などを語り合いました。